

事業コード	H25-建-継-02		区 分	国庫補助	県単独
事業名	流域下水道事業(臨海処理区)		部局課室名	建設部 下水道課	
事業種別	流域下水道事業		班 名	流域下水道班 (tel) 018-860-2463	
路線名等	臨海処理区		担当課長名	高橋 靖弘	
箇所名	秋田市外7市町村(8市町村)		担当者名	主幹(兼)班長 工藤 守	
総合計画との関連	政策コード	11	政 策 名	生活基盤の整備	
	施策コード	01	施 策 名	快適な生活環境の確保	
	指標コード	02	施策目標(指標)名	下水道等普及率の向上	

1. 事業の概要

事業期間	S50 ~ H32 (46年)	総事業費	1,391.0億円	国庫補助率	1/2,2/3	
事業規模	終末処理場180,000m ³ /日、ポンプ場15箇所、幹線管渠路線延長127.3km、汚泥焼却施設150t/日					
事業の立案に至る背景	1970年代に入り全国的に公害防止の気運が高まり、秋田県においても昭和47年4月に県下の公共用水域について水質環境基準を定め、昭和48年から50年にかけて秋田湾・雄物川、米代川及び子吉川の3流域について下水道整備に関する調査を行った。これを基に策定した流域別下水道整備総合計画において、各市町村単位で処理する単独公共下水道と複数の市町村をまとめて処理する流域下水道を定めた。					
事業目的	流域下水道事業は、関連市町村の下水道整備と一体的に進めることにより、トイレの水洗化や生活排水の速やかな排除・処理の普及を促進し、生活環境の改善と公共用水域の水質保全を図ることを目的としている。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等	
	事業費	139,100,000	139,100,000	0		
	経費 内訳	工事費	122,828,500	122,828,500	0	
		用補費	9,909,000	9,909,000	0	
		その他	6,362,500	6,362,500	0	
	財源 内訳	国庫補助	85,500,000	85,500,000	0	
		県 債	23,000,000	23,000,000	0	
		その他	26,800,000	26,800,000	0	
一般財源	3,800,000	3,800,000	0			
事業内容	処理場 ポンプ場 幹線管渠	処理場 ポンプ場 幹線管渠				
事業の進捗状況	平成24年度末の整備率(事業費ベース)は、73.8%となっている。また、平成24年度末における下水道普及率の目標に対し、達成率は103.2%であり順調に推移している。					
事業推進上の課題	供用開始から31年が経過し、耐用年数を超過している施設の老朽化による改築・更新が必要となっているが、昨今の厳しい財政状況の中での普及促進と改築・更新とのバランスを保ちながら、計画的な事業の推進を図る必要がある。					
関連する計画等	ふるさと秋田元気創造プラン、みちのく下水道ビジョン、秋田県生活排水処理整備構想 秋田湾・雄物川流域別下水道整備総合計画、あきた循環のみず推進計画、下水汚泥処理総合計画					
情勢の変化及び長期継続の理由	下水道等(集落排水、合併処理浄化槽を含む)は、快適な生活環境のためには最低限必要なものとして認識されているが、秋田県内における普及率の格差はもとより、全国平均(88.1%)に対する秋田県平均(82.7%)も立ち後れていることから、今後も引き続き整備していく必要がある。また、関連市町村との連携を図り接続率の向上へも取り組む必要がある。					
事業効率把握の手法及び効果	指 標 名	下水道普及率				
	指 標 式	処理可能人口 / 行政人口				
	指 標 の 種 類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目 標 値 a	85.3 %		データ等の出典	あきたの下水道(資料編)	
	実績値 b	88 %				
達成率 b / a	103.2 %		把握の時期	平成25年9月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	流域下水道は、下水道法（第 2 5 条の 2 ）により県が行うこととなっている。市町村が実施しているアンケート等において、下水道整備に対するニーズが高い結果となっている。 下水道事業は、生活環境の改善及び公共用水域の水質保全等の従来のニーズに加え、資源・エネルギー循環の形成、地震対策の推進及び管理の適正化等の新たな役割も求められてきている。	15 点
緊 急 性	事業を休止した場合、関係市町村による処理場及びポンプ場の建設等が必要となり、効率性の悪化や維持管理費の増加等が見込まれるため、事業効果への影響等が大きい。 流域関連公共下水道の整備に伴う汚水量の増加に応じて、速やかな流域下水道の施設の増設が必要である。	20 点
有 効 性	環境基準点において、BOD が減少傾向にあり、水質の向上が図られている。 汚泥のコンポスト（堆肥）化や汚泥から発生する消化ガスの有効利用等、資源の有効利用が図られている。 「みちのく下水道ビジョン」で目標としている、「快適な暮らしの実現」、「災害や雪に強いまちづくり」及び「地球環境への貢献」等の達成に寄与している。	20 点
効 率 性	費用便益費 (B/C) = 1.70 処理場及びポンプ場の施設は、流入量増加に合わせて段階的な増設を行う計画となっており、初期投資を抑えてコスト縮減に努めている。また、設備の増設及び更新時には、省エネ機器の導入や下水道資源の有効利用を図り、コスト縮減に努めている。維持管理費についても指定管理者制度導入により、コスト縮減に努めている。	20 点
熟 度	進捗状況は計画どおりであるが、昨今の社会情勢の変化に伴う財政状況により、今後の事業進捗の見通しが不透明であるなど課題も有しているため、関連市町村の財政状況との調整を図りながら事業を実施していく。 計画汚水量の予測に合わせた施設増設を実施しており、処理能力は確保されている。	20 点
判 定	ランク () 生活環境改善と公共用水域の水質保全のため、関連公共下水道と一体的に進める事業であるので、特に必要性及び緊急性が高い。	95 点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

引き続きコスト縮減に留意しながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 流域下水道事業

事業コード (H25-建-継-02)
箇所名 (秋田市外 7 市町村 (8 市町村))

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	事業の必要性					
	県関与の必要性	法令等で県が実施する事業 県が実施すべき広域的な事業 県が実施した方が望ましい事業	5 3 1	5		
	県民のニーズ	一般県民を対象とした調査でニーズが高い 一般県民を対象とした調査でニーズを把握 一般県民を対象とした調査を行っていない	5 3 0	5		
	社会情勢によるニーズの変化	増大している 特に変化はない 低下している	5 3 1	5		
	計		15	15		
	緊急性	事業の重大さ				
		事業休止の影響	事業効果や効率性、周辺への影響等が大きい 事業効果や効率性、周辺への影響等は小さいが、施設の機能増強や 改築・更新等の老朽化対策が必要である。 事業効果や効率性、周辺への影響等は小さい	10 5 1	10	
他事業との関連						
流域関連公共下水道との関連		施設能力が不足するなど事業効果、効率性への影響が大きい 事業効果、効率性への影響は小さいが、維持管理のリスクは増大 事業効果、効率性への影響が小さい	10 5 1	10		
計			20	20		
有効性	事業の貢献度					
	水質保全効果	処理区域に関連する環境基準点の水質が向上 処理区域に関連する環境基準点の水質が横ばい 処理区域に関連する環境基準点の水質が悪化	10 5 0	10		
	有効利用	下水道資源の有効利用が図られている 下水道資源の有効利用が検討されている 下水道資源の有効利用が検討されていない	5 3 0	5		
	上位計画での位置付け					
	みちのく下水道ビジョン	ビジョンの施策目標値(H24)達成に寄与する ビジョンの施策の基本方針に適合する ビジョンの各施策とは別のその他関連事業である	5 3 1	5		
	計		20	20		
効率性	事業の投資効果等					
	費用便益費 (B / C)	1.0 以上 1.0 未満	10 0	10		
	事業実施コストの縮減	維持管理費も含め十分なコスト縮減が図られている コスト縮減が不十分であり、今後さらに検討する必要がある コスト縮減が図られていない	10 5 0	10		
	計		20	20		
熟度	事業進捗に関する事項					
	進捗率	事業計画に定めた必要な工事が執行できている 事業計画に定めた必要な工事が執行できていないが、事業の進捗 に影響がない 及ぼしている	10 5 0	10		
	施設の供用状況	事業計画に定められた処理能力が確保されている 事業計画に定められた処理能力が確保されていないが、関連公共下 水道からの流入に支障がない 事業計画に定められた処理能力が確保されていない	5 3 0	5		
	今後の進捗見込み	課題は解決済みで順調に推移する 課題はあるが当面進捗に影響はない 課題解決の見込みがない	10 5 0	5		
	計		25	20		
合計			100	95		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		